

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 大学の授業内容・方法改善のめざすものとは
FD推進委員会小委員会委員長
仏教学部教授 熊本 英人
- 学生集団の自己教育力を活かす
文学部教授 坪井 健
- YeStudy を利用してみる
文学部准教授 逢見 明久
- 平成23年度新規採用教員オリエンテーション
- FD推進委員会の今後の活動予定
- 初年次教育学会第4回全国大会開催のご案内

大学の授業内容・方法改善のめざすものとは

**駒澤大学FD推進委員会小委員会委員長
仏教学部教授 熊本 英人**

東北地方太平洋沖地震後の2011年3月15日、「卒業式中止した立教新座高校3年生諸君へ。」と題した校長メッセージが同校のホームページに発表され、全国的に話題を呼んだ。

諸君らのほとんどは、大学に進学する。大学で学ぶとは、又、大学の場であって、諸君がその時を得るといふことはいかなることか。大学に行くことは、他の道に行くことといかなる相違があるのか。大学での青春とは、如何なることなのか。(中略)学ぶことでも、友人を得ることでも、楽しむためでもないとしたら、何のために大学に行くのか。誤解を恐れずに、あえて、象徴的に云おう。大学に行くとは、「海を見る自由」を得るためなのではないか。言葉を変えるならば、「立ち止まる自由」を得るためではないかと思う。現実を直視する自由だと言い換えてもいい。(中略)時に、孤独を直視せよ。海原の前に一人立て。自分の夢が何であるか。海に向かって問え。

そんな高校生たちを迎え入れる大学であるが、さて、こんな大学が、今、あるだろうか。こんな大学が、今、求められているだろうか。

教職員の諸氏は、あるいは、中教審のメンバー諸氏は、文科省の官僚諸氏は、かつて、自分自身がどのような期待を大学に抱き、どのように大学に学んだか憶えているだろうか。学力低下が言われ、大学間の格差が確かに存在する中で、それに具体的に対応しなければならない現実が現実として受けとめよう。しかし、今、私たちが理想とした大学はあるのだろうか？

大学の65%が高校の補講であるとさえ言われる今日、FDは、結局は補講の拡充でしかないのだろうか。そう思うと、もはや大学には高等教育と研究の機関という本質そのものがなくなってしまったと言わざるを得ない。

FDそのものを否定しているのではない。教育機関として、授業内容・方法を改善し向上させるのは当然のことであろう。しかし、同時にそこに大学の存在意義を否定するような使命が期待されているとするならば、そのようなFDを行わなければならない現状を強く意識した上で、現実優先のFDを粛々と推進しながら、大学の真のFDの理想を忘れないでいたいと思う。

連載企画：よりよい教育のために

学生集団の自己教育力を活かす 坪井ゼミ「生きている図書館」の活動から

文学部社会学科 教授 坪井 健

はじめに：昨年10月10日坪井ゼミ3年生は、「生きている図書館（Living Library）駒澤大学」を開催しました。性同一性障害者、難病患者、見た目問題を抱える人、犯罪被害者、元薬物中毒患者、ホームレスなど日頃生きにくさを抱えた人たちを図書館の本に見立てて、彼らのかかえている問題を対面形式で読者に語る催しです。心のバリアーを溶かし偏見を低減しマイノリティの人たちへの理解を深める催しとして11年前にデンマークで初めて開催され、今では世界30カ国以上で開催されています。日本では2008年京都で初めて開催され、昨年は明治大・獨協大と連携しつつ、駒澤大坪井ゼミが世田谷区教育委員会の後援を得て開催し、産経、読売、毎日の大手新聞3紙でも紹介され各方面から注目されました。

坪井ゼミのねらい：社会学演習Ⅰ・Ⅱは3・4年持ち上がりの必修ゼミです。坪井ゼミ2年間の流れは、毎年3年次に共同研究を実施し報告書にまとめ、4年次には各自の卒業論文作成に取り組んでいます。坪井ゼミのねらいは、一言で言うと学生集団の自己教育力をベースにして学生の経験値を高め社会人を育てるといえることでしょうか。キーワードにすると「社会活動」を「チームワーク」で実践し「自己表現力」「社会力」を育てると言うことかもしれません。具体的には、学外に出て地域社会を教育資源として実践的共同活動を通じて「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームワーク力」を高めて社会力の育成を目指すこととなります。これは経産省の提唱する「社会人基礎力育成」プロジェクトにも合致しています。

実際、学外で社会活動すると、教室での座学では見えなかった学生の未熟さがよく見えます。大人を相手にした社会活動で学生は社会人としてのマナーを体で覚えます。自主的ゼミを通じて教育的相互作用が深まり、学生集団の自己教育力が発揮されます。教師は共同研究の大枠や方向性は提示しますが、直接細かく指導することはあまりありません。

学外活動の成果はオータム・フェスティバルで教場展示します（ゼミ成果の中間発表です）。さらに年度末には共同研究報告書をまとめて一般公開しています（大学図書館で閲覧展示、国立国会図書館への納本、Webサイトで公表等。4年次の卒業論文集も同じです）。最近は大学のブログサイト「コ

マプロ」でもゼミ活動の様子を随時公表しています。

報告書やブログは単なるゼミ生の自己満足の活動ではありません。一般公開することで駒大受験生への広報宣伝にもなっていますし、他ゼミへの啓発効果も期待しています。報告書は、学生を送ってくれる指定校にも毎年送付し大学教育の実情を報告しています。

生きている図書館開催の教育的効果：毎年テーマは学生が決めるので共同研究における学生の士気は高くなります。「本」協力者探しは学生の行動力がすべてです。実際、初対面の人に会うには行動力、共感を得て協力を得るには表現力が必要です。昨年も実際に多くの失敗経験から学び「本」の協力者を得たのですが、やはり誠意がないと人の心は動かないことも学びます。ゼミ生8名という小人数の危機感が結束力を高めたことも事実です。現実的リスクを抱えて生まれる緊張感が真剣な行動を生む原動力にもなります。

報告書原稿はゼミ生の個人執筆ではありません。初稿は個人執筆ですが、みんなで批判しながら2度も3度も他人が書き直しますのですべて共同執筆です。ゼミ生の集団的教育力がここでも発揮されます。執筆要領は卒論作成と同じですので、卒論執筆のための文章表現や執筆のトレーニングにもなっています。



（リビングライブラリー：深沢校舎にて）

おわりに ～大学時代の経験値を高める活動として～：実社会でもそうですが、ゼミ生にはそれぞれ得手不得手があるし、他者の評価で初めて開花される能力もあります。集団作業では作業分担の公平や平等主義は取りません。出来る人は他人の分を補い、出来ない人は自分に出来ることを探して全体に貢献することを求めています。最後にみんなで最良の成果を手に入れるためには、各自が相互に他人の凹を補い合う集団文化の育成が何より大切です。ゼミはそんなチーム作りを学ぶ機会になっています。

オータム・フェスティバルの時期は、坪井ゼミ4年生は卒論の下書きを終えた頃であり、仕上げ前のひとときになります。全員で「模擬店」を出店し卒論作成の息抜きとして楽しんでいます。その収益はゼミ卒業旅行の資金に化けるようで

す。大学時代後半2年間の坪井ゼミの濃厚な集団経験は、大学時代の貴重な思い出として毎年7月に開催される「坪井ゼミOB/OGを囲む会」(社会人の先輩との交流会)で後輩に受け継がれます。こうした坪井ゼミの活動は一言で言えば大学時代の経験値を高める活動だといってよいでしょう。

因みに、今年の坪井ゼミは、東日本大震災を受けて、自らのボランティア体験や震災被害者や救援活動経験者などを新たな本に含め、駒大高校生と一緒に生きている図書館を開催する「高大連携」の取り組みにしたいと考えて動き出しています。どんな有意義な経験をして思い出として残せるか今から楽しみです。

YeStudy を利用してみて - 初心者感想

文学部英米文学科 准教授 逢見 明久

今年度から授業時間数を確保するために必要に迫られて、YeStudyを導入していくつかの機能を試しています。慣れないこともあり初回授業は手間取りましたが、いざ使ってみると、担当教員にも受講者にもメリットが大きいことがよくわかりました。この場をお借りしてYeStudyの利点と改善が必要な点について、一人の利用者としての感想をまとめてみました。

【メリットについて】

1. 教員にとってのメリット：「時間と資源の節約」

大きな利点は、教材のデータや連絡事項を事前に受講生に提示でき、教材などの印刷に要する時間と紙資源の節約になることや、よりきめの細かい助言ができることです。大人数科目になるほど事務的な業務が軽減され、恩恵が大きいことがわかります。

以下に利点をまとめてみました：

- 受講者名簿の把握 (YeStudyのコースに登録した受講生の把握ができる)
- 出欠状況の管理 (PC教場以外でも携帯電話のGPS機能を利用したサービスを利用でき、出欠データは自動的に蓄積され、管理しやすい)
- レポート課題の管理 (提出の有無をいつでも確認でき、紙媒体ではないので保管スペースに困らない)
- 質問箱 (フォーラム機能を利用して、受講者のニーズを把握でき、質問と回答は受講者全体に伝わるので説明の重複がなくなる)

- 連絡箱 (フォーラム機能を利用して、グループワークに必要な履修者間の意見交換の場を提供できる)
- 情報の随時更新 (メッセージの追加なども随時行うことができる)
- 様々なデータの配信 (扱えるデータは文書のほか、画像、音源、映像にも柔軟に対応している)

2. 受講者にとってのメリット：「利便性」

受講生が携帯電話で配信内容を確認できる点も、就職活動や部活動で時間的に制約のある学生にとって有益です。病気や通院など、やむを得ない事情で授業に出席できない受講生にとっても、授業内容や課題の有無を確認できることは大きなメリットとなります。担当教員のフォローアップの安心もあるでしょう。

【デメリットについて】

導入以前と比較して、後退した要素は特に感じられません。学生からの相談件数が多すぎて忙殺されることを心配していましたが、今のところそうした状況はなく、杞憂に終わりそうです。利用者として、あえて改善してほしい点を上げるなら、使い勝手についてでしょうか。穴埋め問題や選択問題など小テスト作成機能もありますが、知識不足もあり、うまく使いこなせません。短時間で容易にこれらのテストを作成できる環境が整えば魅力的な機能なのですが、多機能がわざわざしているようです。せめて問題作成のフォーマットが、専門的な知識を有しなくてもよい単純明快なものであれば、魅力的な機能といえます。基本機能に絞ってシンプルにすれば、利用者も増えて、その結果として様々な良い効果が教員・受講者双方に得られると感じました。

現代では効率を求められ、世の中は便利なことで溢れておりますが、一人の大学教員として、教育を効率と結びつけることには抵抗を感じます。一人一人の学生と時間をかけて地道に接することに教育の本来の姿があると信じるからです。YeStudyはすばらしい道具です。しかし良い道具も使いようで、本来の役割からかけ離れてしまうこともあります。道具に使われるのではなく、よき道具の使い手としての意識を忘れずにいたいと思います。

【YeStudyのURL】

<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>

コース作成マニュアル

① YeStudyにログインし、コースに入りましょう

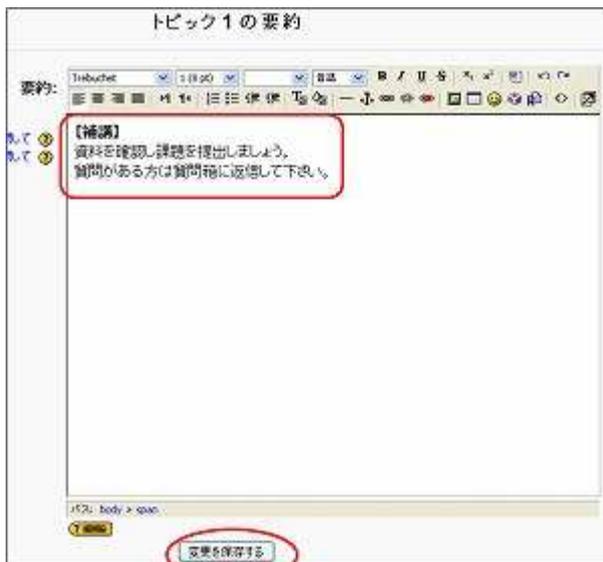


授業内容の入力

② 「編集モード」を開始し、トピック1にある編集マークをクリックして授業内容を簡潔に入力します



トピック1の要約



教材(資料)の掲載

③ 授業で利用する教材(資料)を学生が閲覧、ダウンロード出来るように掲載しましょう

注意

ファイル名は必ず半角英数字でPCに保存して下さい。

半角記号、半角スペースを含むもの、および拡張子のないファイル名のファイルはアップロードできません。



教材(資料)の掲載

This block contains a detailed screenshot of the file upload process with several annotations:

- 資料の名称を入力します。(Annotation: Name of the material is entered.)
- 「ファイルのアップロード」をクリックします。(Annotation: Click 'File Upload'.)
- 「参照」をクリックします。(Annotation: Click 'Browse'.)
- ファイルを選択し、「開く」をクリックします。(Annotation: Select a file and click 'Open'.)
- 「選択」をクリックします。(Annotation: Click 'Select'.)

課題の回収

④ 「活動の追加」から課題の設定をします

学生から1つのファイルを取り込む「単一ファイルのアップロード」を選択します。

課題の名称を入力します。

課題の詳細を入力します。ファイル名を半角英数にすることを記載しておくとも良いでしょう。

課題の開始日時と終了日時を設定してください。

通常は「Yes」に設定します。

通常は「No」に設定します。

「保存してコースに戻る」をクリックします。

学生に公開

⑥ 「編集モード」を終了し、の学生がコースに登録できるように設定します

「編集モードの終了」をクリックします。

「設定」をクリックします。

「コース登録可能」で「Yes」を選択し保存します。

完成！！

※YeStudy の詳しい利用方法は、総合情報センターまでお問い合わせください。

質問箱の設置

⑤ 「活動の追加」から質問箱の設定をします

「フォーラム」を選択します。

「質問箱」と入力します。

「トピック1件のシンプルなディスカッション」を選択します。

利用方法を入力します。

「保存してコースに戻る」をクリックします。

平成23年度新規採用教員オリエンテーション

昨年度に引き続き、4月1日に新規採用教員を対象にしたオリエンテーションを開催しました。

専任教員9名、非常勤教員32名の計41名の先生方にご出席いただきました。

昨年度から二部構成とし、第一部では、石井清純学長から冊子『駒澤大学の沿革と建学の理念』の内容をもとに本学の建学の理念について、小野浩一教務部長から本学の教育課程等について、前FD推進委員会小委員会委員長の中濱光昭先生（経済学部准教授）からFD推進委員会によるFD活動についてご説明いただきました。

事務局からは、教務部から授業運営について、総合情報センターから総合情報センターの利用案内、KOMAnet（コマネット）ユーザID、YeStudyについて、図書館から図書館の利用案内について説明が行われました。

第二部として、専任教員を対象に、教務部から教員教育研究費の取り扱いについて説明が行われました。

オリエンテーションについてご意見、ご提案等ありましたら、事務局までお申し出ください。

1. 開催日時

平成23年4月1日（金）14:40～17:00

2. 出席者数

41名（案内状送付88名）

3. 次第

- ・学長挨拶
 - ・教務部長挨拶
 - ・前FD推進委員会小委員会委員長挨拶
 - ・大学案内（教務部、総合情報センター、図書館）
 - ・質疑応答
- 質疑応答後、講師控室等に案内した。

平成23年度FD推進委員会の今後の活動予定

〇2011年度「学生による授業アンケート」(前期)実施のお知らせ

実施期間：平成23年7月4日（月）～

平成23年7月9日（土）

対象科目：全科目対象（集中講義科目、演習科目、受講生が20名未満の科目は除く）

初年次教育学会第4回全国大会開催のご案内

本学は、2010年度より、機関会員として、初年次教育学会に入会しています。初年次教育学会は、初年次教育に関する研究と実践の有機的発展とその成果の普及による大学教育改善への貢献及び会員相互の研究交流の促進を目的としています。

初年次教育学会第4回全国大会が、8月31日（水）～9月1日（木）の期間に久留米大学にて開催されます。機関会員は5名まで参加できますので、参加を希望される専任教員は、事務局にお申し出ください。

初年次教育学会第4回全国大会

1) 開催日

平成23年8月31日（水）～9月1日（木）

2) 会場

久留米大学 御井（みい）キャンパス
〒839-8502 福岡県久留米市御井町1635

編集後記

平成23-24年度のFD推進委員会は、これまでの活動を継続し、初年次教育を課題の一つとしています。今回は、初年次教育の延長線上にある専門教育について、各学部学科の特色ある教育事例を紹介することとし、精力的に課外活動を取り入れておられる文学部社会学科の坪井健先生にゼミ研究活動についてご報告頂いております。また、今年は東日本大震災の影響で授業数の確保が難しい事態も生じており、その一つの解決策として、YeStudyの活用が候補とされておりますので、YeStudyの導入方法や活用法などを紹介するコーナーも設けることにいたしました。巻頭には、今期FD推進委員会小委員会委員長の仏教学部の熊本英人先生の所感を掲載しました。

FD推進活動の原点である「学生による授業アンケート」については、昨年教員アンケートを実施して、教員の皆様より授業アンケートの方法やその有効活用などについて、様々な意見をお寄せ頂きました。ご回答頂きました教員の皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。FD推進活動が正しく機能するためには、教職員個々の取り組みと同時に、問題意識の共有が重要となります。FD NEWSLETTERの役割は、まさに情報の共有の場を提供することにあると考えます。今後ともFD推進活動や、FD NEWSLETTERで扱うべき課題について、各学部等のFD推進委員会小委員会委員まで忌憚のないご意見をお寄せ頂けると幸いです。

最後に、新学期の公務ご多忙の折にご寄稿頂きました先生方のご高配に心より感謝申し上げます。

（鄭 章淵・逢見 明久）

【タイトル横の写真は、本部棟入口周辺】

FD NEWSLETTER Jun. 2011 第27号

発行日：2011年6月30日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

（事務局：教務部）